

飯塚 明子 (2003～2004 年度姫路中央 R C 推薦 国際親善奨学生)

現況レポート

私は夫の仕事に伴いスリランカに家族で住んで 4 年目になります。

長男が 3 歳半、次男が 1 歳半になったので、アジアパシフィックアライアンス (以下 A-PAD) と NGO のスリランカ駐在員として 1 年前からスリランカのコンボで働き始めました。

A-PAD は経済界、NGO 界、政府などが連合して、ナショナル・プラットフォームを構築し、各国のナショナルプラットフォームが連携して災害時の相互支援をするという新しいタイプの地域国際機関です。

スリランカでは、行政の防災担当官、災害に脆弱な地域の住民学生、住民グループ等に、防災に関する研修を実施したり、スリランカの企業や政府、NGO と一緒にスリランカの防災ナショナルプラットフォームを構築、プラットフォームを通して災害対応をする仕事をしています。

国際的にはあまり報道されていないかもしれませんが、去年スリランカで発生した干ばつや洪水、土砂災害では、スリランカの企業数十社やスリランカの防災省と連携して、支援物資の配給等を実施しました。

スリランカのセイロン商工会議所と現地 NGO と一緒に防災ナショナルプラットフォームを構築しているのですが、スリランカの企業は私が想像していた以上に、社会貢献にとっても関心が高く、毎月実施しているセクターを超えたネットワーク会合や、防災に関する研修に企業の担当者が多く参加したり、国内で災害が発生すると、支援物資や輸送手段を提供して下さったりします。

またスリランカ以外でも、アジア各国に A-PAD の防災プラットフォームを構築しており、現在はフィリピン、インドネシア、バングラディシュでもセクターを超えた防災のプラットフォームができつつあり、4 月に発生したネパールの地震では、A-PAD チームとして、日本、スリランカ、バングラディシュ、インドネシアから専門家やスタッフ、救助犬を派遣し、現在災害救援にあたっています。

A-PAD について詳しくは以下のホームページをご参照ください。

<http://apadm.org/japanese/>

補足「プラットフォーム」:

プラットフォームは邦訳するのが難しいのですが、「仕組み」とか「基盤」、「体制」という意味が近いかもしれません。

災害時 (特に 10 年前のインド洋大津波の時) に、これまで NGO、企業、政府等がそれぞれ別々に支援を実施してきて、連携や調整がうまくできていなかった

たため、援助物資が重複したり、行き届かない地域があったりして大きな課題となりました。そのために、できるだけ効果的な支援を行うために業界の垣根を越えて、様々な団体が連携し、それぞれの持ち味を生かして災害支援をしようという仕組みを作る仕事をしています。それぞれの持ち味を生かすというのは、例えばこれまでのスリランカの経験で言うと、災害時にエキスポという運輸・交通分野の会社が緊急物資を運ぶトラックを提供したり、セイロンビスケットという会社が健康食品やビスケットを提供したり、カーギルスという大手小売業が被災地に近い店舗から安価で物資を提供したり等と言った連携が可能となりました。またコロンボのロータリークラブからは災害時に毎回クラブで集めた寄付をいただいています。プラットフォームではそういった連携を災害が発生した後だけではなく、平常時から研修を実施したり企業担当者や政府関係者、援助関係者が参加する会合を開いて意識を高めたり、連携を深めたりしていこうという活動をしています。

以上